



Weekly Report



北ロータリークラブの歴史に“あなたの足跡を”

佐世保北ロータリークラブ 2009～2010年度 RI 会長 / ジョン・ケニー ガバナー/ 高城昭紀

会長/宮崎有恒 幹事/西川正美 例会場/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店8Fカトレアホール（毎週月曜日）
 創立/1984.4.16 認証/1984.5.14 事務局/佐世保市島瀬町7番7号 西沢本店内 TEL 0956-22-7144 FAX 0956-22-1201
 E-mail office@sasebonorth.org Web http://www.sasebonorth.org

【本日】会員数46名	出席 28名	欠 席 6名	出席免除会員出席 10名	ビジター 0名	出席率 85.71%
【前々回】会員数46名	出席 26名	メークアップ 8名	出席規定除外 12名		修正出席率 100.00%

《会員卓話》

「推理小説の愉しみ」

吉澤俊介 会員



私の好きなミステリー作家の北村薫さんが直木賞を受賞されました。また、今年は松本清張の生誕100年ということで、清張作品が沢山ドラマ化されています。そういう

訳で、今回は推理小説の話をいたします。大学では推理小説同好会に籍をおいて研究？をしていました。日本の大学では一番古い推理小説の同好会で、三億円事件で捜査が行き詰まった折に参考人聴取を受けた会員もいた同好会です。

さて、推理小説の始まりは、1841年に書かれたエドガー・アラン・ポーの「モルグ街の殺人」で、その数年前にイギリスで警察制度が整ったことや、急速に都市化が進む中で犯罪が多発していたことが、このジャンルの小説が確立した一因といわれています。

その後様々な作品が発表されましたが、80年ほど前にノックスという作家が推理小説の約束事と言うべき十戒を示しました。たとえば、「犯人は物語の最初の方で登場しなければならない」当たり前ですね。最後にいきなり犯人が登場したら怒ります。「偶然や第六感で事件を解決してはならない」これでは推理も何もあったものではありません。「中国人を登場させてはならない」当時中国人は欧米人が知らない特別な能力を持っていると考えられていたようです。などの戒律があり一定のルールのもとで推理小説は読者の支持を集めていきました。もちろんこのタブーを見事に破ることで数々の名作が生まれているのも事実です。推理小説には様々なジャンルがあり、小説構成に欠かせない「犯人」「犯行方法」「動機」の三つのうち何に重きを置くかで違ってきます。一番の基本ジャンルは、小説に純文学があるよ

うに、この三つをキチンと兼ね備えたものが「本格」と呼ばれ、数多くの作品があります。推理小説の愉しみは、なんと言っても肩ひじ張らずに読めること。結末がはつきりしていることです。それから、やはり謎解きの面白さであり、自分なりに謎が解けたときは快感ですし、騙される楽しさもあります。そして、犯罪を犯す人物の哀しさや人間の性、探偵役がそのことに情を移しつつも真実を貫く姿勢に感動を覚えることです。

《会長挨拶》

宮崎有恒 会長

8月下旬、野球を観戦する機会がありました。福岡ドームでのプロ野球の試合ではなく、させば球場での四国、九州アイランドリーグの長崎セインツ対高知戦です。

かねてより一度、観戦したいと思っていたところ、元メジャーリーグ伊良部投手の高知入団、そして登板日が29日（土）ということで足を運びました。

長崎セインツの経営危機が言われている中、この日は今季最多の入場者数1336名でバックネット裏はほぼ8割ぐらゐの入りでした。3点を先行されたセインツ、伊良部よりのホームラン等で6回終わって、5-3と逆転したところで帰宅したら、翌日の新聞では5-6と逆転負けでした。

ところで伊良部はというと、見たところ球も速くなく、何となく精気もなくやはり40歳と年相応の感じでも素人がみてもやっつけられる感じはしませんでした。が、パソコンで彼のブログを見るとやる気満々でした。

試合のあいまには、球団社長みずからマイクを握り、抽選会や子供たちのイベントの司会をしたりしていました。また機会があれば見に行きたいものです。

《幹事報告》

西川正美 幹事

1. 例会変更

・松浦RC

10月9日（金）12：30→18：30

九州電力松浦発電所内「緑の広場」（観月会）

